

「秋田大学学生海外派遣支援事業」帰国報告書

記入日： 24年 7月 6日

所属：工学資源学部 生命化学科 2年
氏名：高橋 力載
派遣先大学名（国） ケミ・トルニオ応用科学大学(フィンランド)
在籍身分：交換留学生
派遣期間：2011年8月～2012年6月
渡航年月日：2011年8月18日
帰国年月日：2012年6月5日

○研究・学習概要及び今後の勉学計画

現地では、business management の1年生として留学生のクラスで勉強しました。授業ではビジネスの場面での正しい英語の話し方や、プレゼンテーションのやり方、Microsoft office (Word・Excel・Powerpoint など)の使い方などを学びましたが、週に2コマほどフィンランド語の授業もあり、英語だけでなくフィンランド語も学ぶことができました。日本の授業と違い、授業はほぼディスカッション形式で行われ、先生方も生徒たちも積極的に意見を交換します。そのため黒板を写すことはほとんどなかったと思います。

約10カ月間のフィンランド生活のおかげで、自分が英語を話したり、読んだりすることの違和感がなくなったように思います。今後は日本にいなながらもできる限り英語に触れ、自分の英語力の向上に努めたいと考えています。

○生活面について

現地では大学の斡旋するアパートに住んでいました。各部屋3DKの間取りとなっているため、それぞれの部屋には最低3人、1部屋を2人でシェアすることもできるので、最大で6人が住んでいます。私のいた14号室では、誰も1部屋を2人で使っている人がいなかったため、中国人とハンガリー人と私の3人で部屋を使っていました。1人に1部屋が割与えられているので、プライベートは守られていますし、授業でわからないことなどはルームメイトにすぐに聞くことができるので、アパートでの暮らしはとても快適でした。大学からも徒歩2分くらいの位置にあり、28部屋中1部屋以外はすべてケミ・トルニオ応用科学大学の留学生が住んでいたため、留学生たちと友達になるまでに時間はかかりませんでした。大学主催のパーティーなども頻繁にありますし、留学生だけで個人的にパーティーを開くことも多いので、積極的に参加することで、留学生だけでなく、現地の大学生とも交流を深めることができると思います。

食事に関してですが、私はルームメイトの中国人が炊飯器を持っていたこともあり、基

本的に日本にいたころと同じような食事をとっていました。米は現地のスーパーで買うことができますし、アジア人向けの調味料なども買うことができます。もちろん買うことができないものもあるので、何度か両親に日本食を送ってもらったこともありましたが、アパートに住む友人たちが自分の国の料理を作ってくれたことも何度もあり、フィンランドの料理だけでなく、世界各国の料理が食べられたので、約 10 カ月間の留学期間内で食に関するストレスはほとんどありませんでした。

○その他留学全般にわたる感想

この 10 カ月間の留学を通して、ビジネスの知識・英語力の向上や、さまざまな国の文化や考え方に触れることで、自分の考えの幅を広げることができました。また日本人が 1 人もいない見知らぬ地で生活をしたという経験は、私に自信も与えてくれました。つらいこともありましたが、無事に留学を終えて帰ってくることができたのは、多くの友人たちと先生方の助けがあったからだ、留学中も留学を終えた今も強く感じています。

外国で暮らすということは、言葉や文化の違いから生じるストレスに耐えうる精神力や適応能力がある程度求められるので、興味はあっても、実際に留学することを少し不安に思う人もいるかもしれませんが、留学することでしか経験できないこともあると思うので、体験してみることをお勧めします。

恐れ多いことですが、この留学体験記が少しでも多くの人にとって有意義なものとなり、秋田大学とケミ・トルニオ応用科学大学間の交換留学が盛んになるきっかけを作ることができたらと思います。

最後に、私に留学という素晴らしい経験をさせてくれた秋田大学、留学生活中支えてくださった全ての方々に感謝いたします。

